

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103920号		
法人名	社会福祉法人 陵風会		
事業所名	グループホーム 西谷山		
所在地	鹿児島市上福元町5604番地 (電話) 099-260-1343		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年2月14日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤8人, 非常勤10人, 常勤換算	13.59人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	78歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中山クリニック・桑畑歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

明るく木のぬくもりを随所に感じることができる家庭的でゆったりとしたホームである。職員は笑顔のある会話・ボディタッチ・コミュニケーション・観察を重視し、入居者の意向の把握に努めている。また、職員が採取した旬の食材つわぶき・カニ等を使った献立にしたり、ラーメンや寿司などの外食の支援をしており、入居者の楽しみになっている。職員の入れ替わりもほとんどなく、馴染みの関係作りができており、入居者は安心して日々を送っている。また、職員は資格取得に意欲的であり更なる質の向上が期待されるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の開催に向けて具体的な期日を計画し準備を進めている段階である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義を理解し、各自で自己評価をして、ユニット毎にそれらの意見を集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ開催されていないが、早期に具体的な開催日を決定し準備を進めている段階である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見を表せるよう、普段からのコミュニケーションを大切にしている。出された意見には、職員で協議し家族に相談や説明をして、改善に努めている。意見箱・苦情相談窓口の設置や第三者委員も選定されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、十五夜などの地域行事に参加している。会長や民生委員と随時相談・連携を図り、また中学生の職場体験の受け入れなどとして、更なる地域との交流に向け取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたの声に耳を傾け、あなたがあなたらしく地域に密着した生活」を目指した、ユニット毎の理念を開設当初につくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り後に、理念を唱和することで意識付けを図っている。理念は究極のケアであると理解しており、日々、理念を大切に実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、十五夜などの地域行事に参加している。会長や民生委員とは随時相談・連携を図り、また、中学生の職場体験の受け入れなどもして、更なる地域との交流に向け取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が各自で自己評価に取り組み、ユニット毎に話し合い意見を集約した。外部評価の結果を職員へ報告し、評価を活かし質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていないが、具体的な開催日を決定し準備を進めている段階である。	○	会議を定期的に行い、そこでの意見を具体的に活かしサービスの質の向上に取り組むことが期待される。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の各課の担当者には、事業所から積極的に課題点や疑問点など細かい相談や報告を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム通信を発行している。家族の訪問時に、金銭管理や近況の報告をしている。状況に応じて、現況の報告や健康状態の報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を表せるよう、普段からのコミュニケーションを大切にしている。出された意見には、職員で協議し家族に相談や説明をして、改善に努めている。意見箱・苦情相談窓口の設置や第三者委員も選定されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりはほとんどなく、馴染みの関係ができています。管理者は職員が働きやすい環境づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修及び新人や資格・希望などに応じた外部研修に参加する機会が確保されている。外部研修後の伝達研修も実施され、情報は共有されている。職員は資格取得に意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会に参加し、意見交換や交流を通し、事業所外の意見や経験をケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の心身状況の把握に努め、事前の面談やホームを見学してもらっている。本人や家族とも相談しながら、個々に応じ環境づくりや言葉かけなど工夫や配慮しながら、徐々に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の状況に応じて、できることはしてもらっている。また、入居者から職員は昔の暮らしぶりを教わったり、励ましをもらったりしながら、共に過ごし支え合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	精神状況・動作・言動等の状況観察を日常的に努め、気づきを記録することで情報の共有を図っている。会話や触れ合うことなどで、本人の思いを引き出すよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を把握している。また、日々の状況把握や情報交換などを通して職員の意見を聞いている。基本的に家族も交えた担当者会議を開催して、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎や6ヶ月毎など個々に応じた期間で見直しをしている。状況の変化等に応じて本人や家族・職員等と話し合い新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じて通院支援を行っている。墓参り等の特別な外出は家族の協力を基本としているが、ホームとしてできる範囲で柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医である。それぞれの医療機関とは日常的に相談連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状況に応じて、本人・家族・医療機関・職員と随時話し合って方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、プライバシーを尊重し個々に応じた言葉かけや対応を心がけている。管理者は言葉かけなどで気付きがある場合は、その都度、職員に意識付けを図っている。個人情報の取り扱いも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活リズムを考慮しながら、一人ひとりのペースや希望に、できる限り沿えるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、入居者の体調や意向に配慮しながら、入居者と共に調理の下準備や食事・下膳・台拭きなど、楽しくできるよう支援している。ラーメンや寿司などの外食する機会もあり、入居者の楽しみごとのひとつとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日の設定がされているが、希望や状況に応じて設定以外の曜日でも柔軟に対応している。一人ずつゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や力を活かし、調理の下準備・下膳・台拭き・洗濯物たたみなど無理なくできる役割や、外出や外食など楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や意向に応じ、散歩などの支援をしている。また、定期的にドライブや外食・同法人施設への訪問など、戸外にでかける機会を設定して支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関に鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施している。防火管理者である管理者の指導のもと、消火訓練・避難誘導の手順や方法を身につけている。災害時の協力を得られるよう自治会に相談している。台風時期には食料や水の確保がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量の大まかな把握をしている。同法人の栄養士の献立を基にメニューを作成するなど、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広々として清潔である。また、不快な音や光・匂いに配慮されている。季節感を大切にし、季節の花々や装飾など工夫している。ソファの配置や畳コーナーなどがあり、家庭的で居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて過ごせる居室づくりを目指し、家族と相談しながら取り組んでいる。それぞれ個性的な居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。